

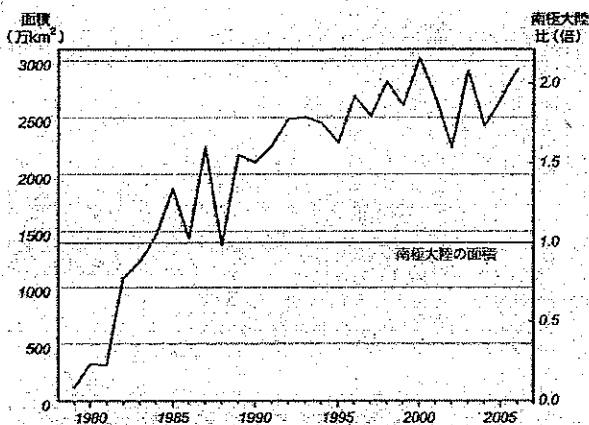
オゾン層保護・フロン対策の現状と今後

フロン等対策推進室

1. オゾン層の現状と将来予測

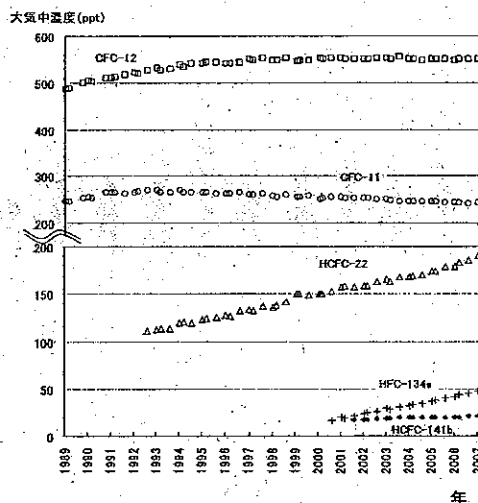
○オゾン層の現状について、健康影響が予想される深刻な状況が続いている。

- ・地球全体のオゾン全量は、1990年代前半以降、現在も減少した状態が継続。
- ・南極域上空では、毎年最大規模までオゾンホールが拡大しており、2006年に形成されたオゾンホールの面積は、2000年に次ぐ観測史上2番目の広さ。(下図参照)



オゾンホールの面積の経年変化 気象庁オゾン層観測報告2006より

- ・北半球中緯度域のフロンの大気中濃度は、CFC類が横ばい又は減少している一方で、HCFC類は急速に増加中。また、オゾン層は破壊しないが強力な温室効果ガスである HFC-134a は、毎年10%前後の増加率で増加中。(下図参照)



北海道におけるフロンの大気中濃度

○オゾン層の将来についての数値モデル予測によると、モデルによって結果に幅があるものの、多数のモデルではオゾン全量が1980年以前の状態まで回復する時期を今世紀中頃と予測。

2. フロン対策の状況

- 「オゾン層を破壊する物質に関するモントリオール議定書」に基づき、日本を含む先進国は、CFC類を1996年に全廃、HCFC類の消費量を段階的に削減し2020年に原則全廃。(HCFC類の生産量は2004年凍結。)
- 一方、開発途上国では、CFC類を2010年に全廃、HCFC類は2015年を基準とし、2040年に消費量全廃。
- 開発途上国では、HCFC類が基準年に至っていないことから、生産・消費量が増加しており、モントリオール議定書締約国会合において、HCFC類の規制前倒し等が議論されている。

・モントリオール議定書締約国会合が、現在、次の日程で開催中。

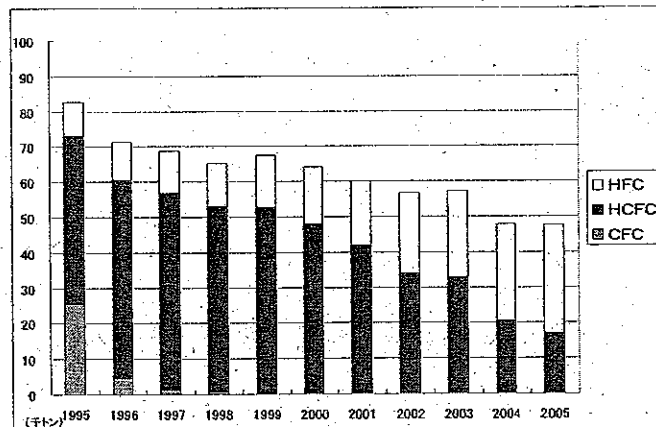
「オゾン層を破壊する物質に関するモントリオール議定書」第19回締約国会合

開催日程：9月17日～21日

開催場所：モントリオール（カナダ）

※本年がモントリオール議定書採択から20周年に当たることを記念し、モントリオール議定書のこれまでの成果を確認し、今後の継続的取組の約束を再確認することを主な内容とする宣言文案の検討も行われる予定。

- オゾン層を破壊しないが、強力な温室効果を持つHFC類は、モントリオール議定書による規制の対象にはならず、CFC類及びHCFC類の代替物質として、わが国でも出荷量が増加中（下図参照）。



フロン出荷量の推移

- HFC類の使用増加に伴い、京都議定書上の代替フロン等3ガス（HFC、PFC、SF₆）の排出量は、今後増加する見通し。
- 本年10月1日に施行される改正フロン回収・破壊法に基づき、冷媒に使用されるフロンの回収を促進する他、ダストブローの噴射剤や製造工程における洗浄剤等のノンフロン化、建物等解体時における建材用断熱材からのフロン回収等、大気中への排出を抑制するための施策を実施。